平成20年4月14日

平成１９年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者　部・講座等名　幼年発達支援

氏　　名　木村直子

プロジェクトの名称	大学教員のメンタルヘルスを規定する諸要因に関する実証的研究―大学教員の職業性ストレスと健康の関連から―	配分予算額	1,293,000　円
プロジェクトの概要	本研究プロジェクトでは、大学教員への健康調査を実施することによって、大学教員の心身の健康状態を把握し、教育現場を取り巻くさまざまな状況の変化、仕事の特性、働き方、過労や過大なストレス状態に追い込まれる状況、学生とのかかわり、教育組織の問題、職場の人間関係などど大学教員の心身の健康の関連を多面的かつ客観的に明らかにすることを目的とした。NIOSH（米国国立労働安全保健研究所）の示した職業性ストレスモデルやKarasekの作成した産業ストレス調査票（JCQ）の内容を踏まえて作成された日本版職業性簡易ストレス調査票（厚生労働省「作業関連疾患の予防に関する研究」1995-2000（研究代表　加藤正明）を用いた質問紙を作成した。協力大学（国公立・私立・短期大学）にて質問紙法による調査を実施し、データを収集した。収集したデータをSPSSによって解析し、大学教員のストレスとその健康への影響など大学教員のメンタルヘルスの構造を明らかにした。		
成果の概要	職業性ストレス簡易調査票を用いた大学教員の健康調査について、218ケースは協力大学（国公立・私立・短期大学）を対象に，大学ごとの留め置き郵送法を用いて実施した。また，818ケースについては協力教員を対象に個別郵送法を用いて実施した。収集したデータの分析については，SPSS 15.0 for Windowsを用いた。とりわけ，ストレス構造の実証については，SPSS社のAmos 7.0 for Windowsを用いた。 収集したデータの分析結果については、以下の通りである。 （１）職業性ストレスモデルを仮説に、共分散構造分析によって実証した。 （２）大学教員のストレス要因は，「職場の対人関係」「仕事のコントロール度」「仕事の適性度」「働きがい」によって構成されている。 （３）大学教員のストレス反応は，「イライラ感」「疲労感」「不安感」「抑うつ感」によって構成されている。 （４）大学教員の職業性ストレスモデルでは、特に「仕事の適性度」「働きがい」が、「不安感」「抑うつ感」に影響を及ぼしている。		

（注）１．箇条書き等により簡明に記入すること。
２．概要については，８００字程度にまとめること。
３．研究協力者として院生等が参加している場合，院生等の報告書があれば添付すること。
４．なるべくパソコン等で作成願います。